



2023(令和5)年10月号

「よつやく秋めいときました」

秋のお彼岸も終わり、朝晩は気温もようやく落ち着いてきたようです。日中はまだまだ暑い日が続いていますが、真夏の暑さに比べれば、ずいぶん過ごしやすくなったように思います。

さて、秋のお彼岸がおわると、浄土真宗お寺は報恩講(親鸞聖人の祥月命日法要)に意識が向いていきます。東久留米会館の報恩講は、十一月二十三日に行います。その前の十一月十二日には築地本願寺で行われる報恩講に皆さんと参拝する予定です(現地集合・現地解散)。

どちらも元気に参拝できるように、体調管理に気をつけて過ごしてくださいね!

「京都大原と声明」

〜きょうと〜 おおはらさんぜんいん という歌い出しで始まるデューク・エイセスの「女ひとり」。この京都大原、実は日本声明の里でもあるのです。

さて、「声明」とは、もともとは古代インドの学問分野・五明(ごみょう)の一つで音韻学や文法言語学のことを指す言葉でした。

しかし、現在の日本仏教では、お経の文を歌誦する声楽の総称として「声明」または「梵唄(ぼんばい)」の語を用いています。早い話が仏教音楽のことだと思ってください。意外かもしれませんが、音楽と宗教は遠い昔から深い関連を持ってきました。世界的に有名なキリスト教のグレゴリオ聖歌もその一つです。

ところで、声明には、呂曲(ろき

よく)・律曲(りつきよく)・中曲(ちゅうきよく)という三つの音階があります。日本声明の里、京都大原の呂川・律川という川も、これにちなんで名づけられたと言われています。ちなみに、言葉がはっきりしないことや、調子はずれのことを「呂律(ろれつ)が回らない」と言いますが、この言葉の起源も声明の音階からきています。

この声明は、日本の近代音楽にも大きな影響を与えました。

浄瑠璃の曲節や江州音頭等の各地の音頭、盆踊りの歌、もっと身近なところでは演歌も声明の影響を受けているそうです。

そう考えると、日本人の音楽の根底には声明の旋律が流れており、その根拠地が京都大原なのです。

(参考文献 辻本敬順著「仏教語の風景」)

9月の会館の様子

秋季彼岸会法要

ご講師:福井 学誠 師(埼玉県 浄泉寺)

9月23日(土) 午後1時~

23日「秋分の日」に行い、17名の方がご参拝・お聴聞くださいました。秋分の日は、お彼岸の真ん中の日なので仏教では「中日(ちゅうにち)」とも言います。「会(え)」は法要という意味です。法要の後には、私(伊藤)と連れ合いでミニコンサートをさせていただき、21名の方に音楽をお届けいたしました。



お勤めは新制御本典作法の和讃譜



法話講師の福井学誠 先生



9月が誕生日の方と記念撮影



ミニコンサートの様子

その他のお知らせ

奉讃会からのお知らせ

「東久留米会館奉讃会 念仏奉仕講」を始めます

奉讃会では毎月1日の8時～10時に「東久留米会館奉讃会 念仏奉仕講」として東久留米会館の屋外・屋内の清掃奉仕を行い、会館が目指す「また来たくなるお寺づくり」を美化活動の面からもサポートしていくこととしました。「途中からの参加・途中までの参加・会員でない方の参加も大歓迎です。あなたのお力を私たちに貸してください、お願いします！

東久留米会館からのお知らせ

築地本願寺報恩講団体参拝について

今年の築地本願寺報恩講への団体参拝は11月12日(日)10時からの日中法要に参拝を予定しています。**参加される方は10月31日(火)までに、東久留米会館へ申込ください。**現地集合・現地解散・昼食はお斎弁当です。

主管からの報告

出張演奏してきました！

9月1日 両国の慈光院(築地本願寺の分院)で、江東学園幼稚園の保護者聴聞会が行われ、私(伊藤)と連れ合いで演奏会をさせていただきました。これまでも色々な病院や学校などで演奏してきましたが、どの会場でも皆さん熱心に聞いてくださり、本当にありがとうございます。



東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 10月の行事予定

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

10月16日(月) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

常例法座

10月22日(日) 午後1時～

ご講師:佐々木 了俊 師(東京都 明西寺)

仏さまの教え(ものの見かた・考え方)を分かりやすくお話します。見かた考え方が変わると、いつもの風景が違って見えますよ！
お気軽にお越しください。

▶ 11月の行事予定

東久留米会館奉讃会 念仏奉仕講(会館美化活動)

11月1日(水) 午前8時～10時

あなたの手助けが必要です。
途中参加大歓迎!誰でも参加できます。

東久留米会館 報恩講

11月23日(木祝) 午前10時～

ご講師:澤田 唯 師(茨城県 安楽寺)

報恩講とは親鸞聖人の祥月命日(亡くなった月日)の法要で、浄土真宗では特に大切に勤めます。皆さんで親鸞聖人の遺徳を偲びつつ、聖人のおかげで阿弥陀様のお救いに出逢えたことに感謝いたしましょう。

東久留米会館会報 「ともしび」
第330号

発行日 2023年10月1日
発行者 伊藤 法友
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話 042-474-6787

いつも「ともしび」をお読みいただきありがとうございます。
先日、足をくじいたようです。「ようです」というのは病院に行っていないからです。診断結果が出ると嫌でも事実を受け入れないといけないからです。でも、事実を真正面から受け止めないと適切な治療を受けられないのも分かっているのです。分かっているんですけどねえ…。ありのままの私の姿を知るのは：やはり怖いです。

編集後記

先月のお仏飯米などのご進納
神谷正弘様 熊谷武様
名取康彦様 池田中子様
近藤敏之様(順不同)

誠にありがとうございました。